

## ○講評

今年も多くの方々に参加していただき、写生大会を開催することができました。ご家族やお友達と一緒に美術館や庭園の風景を描きながら、秋の一日を楽しく過ごしていただけたと思います。また、愛知県立芸術大学の学生さんにアドバイスをもらって、新しい気づきとともに満足のいく作品を描き上げたことでしょう。

当日は暖かい気候と晴天に恵まれたためか、青空を背にした美術館の建物や、色づいた木々を描いた作品が多く見られました。また、広い庭園の中に点在する彫刻やランドスケープデザイン、建築に焦点をあてた作品もあり、美術館での写生大会らしい作品が揃いました。

・美術館大賞（小3）は、庭園にある彫刻が画面いっぱい大きく描かれていて、力強さを感じられます。空の青、木々の緑、彫刻のオレンジなど、けっして色数は多くはありませんが、それがかえってモチーフの一つひとつの存在感を増し、コントラストの強さとあいまって、画面に勢いを与えています。彫刻の形がしっかりと捉えられていて、対象をやや見上げる位置にある描き手の視点の位置も分かります。鉛筆の線で表面の凹凸や模様も細かく描かれ、全体によく観察していることが伝わる作品です。

・美術館館長賞（小4）は、青い空を背景にした白い隅櫓と前景の緑の木々が、画面の中にバランスよく配され、どっしりと安定感のある構図で描かれています。それぞれは、水彩らしい濃淡のある色彩で塗り込められ、とても表情豊かな表現となっています。それは、輪郭や形体の描写に用いられている太い筆の勢いのある線によっても強調されています。また、手前の木々と奥の隅櫓との遠近感もしっかりと描き出されていて、全体的に構成力を感じさせる作品です。

・高橋記念美術文化振興財団理事長賞（年長）は、勢いのある筆遣いで目の前の風景を一生懸命に描いていることが伝わってきます。画面中央の格子状の黒い線が描かれた灰色の部分は、小さな人物が描かれていることで隅櫓へ上がる階段だと分かります。そしてその階段の中ほどと手前に描かれている蝶とトンボは、階段を縦に3等分する線にそれぞれ配され、また人物との大きさの比が遠近感を感じさせるなど、魅力的な要素が詰まった作品です。